The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	アスターナ古墓群
Author(s)	荒川, 正晴
Citation	月刊しにか. 1996, 7(1), p. 70-71
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88455
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

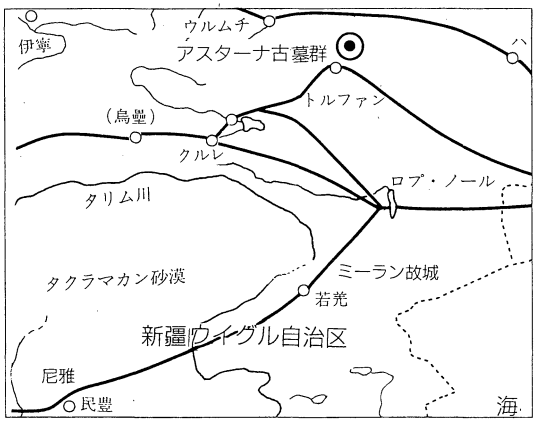
【特集】
▼
中国主要遺跡ガイド

アスターナ古墓群

アスターナ（阿斯塔那、漢名は三堡）古墓群は、カラホージャ（哈拉和卓、漢名は二堡）古墓群とともに、高昌故城の北方に広がる墓葬域であり、現在確認されている範囲では、その造営年代は三～八世紀の長期間にわたっている。トゥルファン盆地の歴史から見れば、この時期は中国内地より流入してきた漢人が高昌故城を中心として勢力を伸張させ、五世紀半ば以降は完全に盆地全体を掌握していた時代にあたっている。従って、高昌故城のネクロポリス（共同墓葬区）としての性格をもつ本古墓群も、被葬者はほぼこうした漢人たちであった。

記録によれば、既に清朝末期の宣統二年（一九一〇）一〇月に、巡検の張清が三堡（アスターナ）を発掘しているらしいが、まとまった数の墓を発掘したのは、一九一二年の大谷探検隊と一九一五年のスタイン探検隊とであろう。その後、中国からも、一九三〇年に西北科学考査団に参加した黄文弼が、さらに中華人民共和国成立後の一九五九～七五年にかけて、新疆ウイグル自治区博物館の考古工作隊らが中心となってアスターナ古墓群の発掘調査を行った。現在でも、地元の吐魯番地区博物館が中心となって調査を継続している。

残念ながら、これだけの人々や機関が発掘に従事しているにもかかわらず、本古墓群全体の墓葬分布図はいまだ作成もしくは公表されておらず、現在でも正確な墓葬域の規模を知ることはできない。ただし、一九八八年に行われた普査（ジェネラルサヴェイ）隊による簡単なトゥルファン盆地の遺跡分布調査によれば、アスターナ古墓群の規模を約一〇平方キロメートルと報告しており、かなり広大な範囲に墓が散在していることがわかる（ただし上記報告には同古墓群の年代を晋～元としている）。一九五九～七五年における発掘調査では、カラホージャ古墓群も含まれるが、全部で四五六基におよぶ墓を発掘している。個々の墓の規模は、最大のものでも墓道から墓室まで二五メートル前後のもの



であるが（礫石の墳丘下に地下式の墓室があり、スロープをなした墓道によって墓門にいたる構造）、同族の墓葬域（塋域）を石塊で作られた線欄（エンクロージャー）によって示すのが特徴的である。

出土品として、多くの織物や明器類をはじめ、クッキー、ワンタンなどの食料品も発見されており、美術史や当時の食生活をさぐる貴重な資料となっているが、何と言っても、このアスターナ古墓群を有名にしたのは、そこから出土した多くの古文書の存在である。現在、敦煌文書と並んで中国および内陸アジアの歴史研究に重要な一次史料を提供している。先の一九五九年からの発掘でも、一一八基の古墓から文書が出土し、全二万七〇〇〇点余りの断片から整理作業の結果、漢文文書約千六百点が、得られたと報告されている。文書の年代は、最古のものが前涼の升平一一年（三六七）、最も降るものでは、唐の大暦一三年（七七八）におよんでいる。副葬品リストでもある隨葬衣物疏以外では、その多くが被葬者の靴や冠帯、あるいは遺体の下に敷かれていた蓆に貼られたりして二次利用されたものであり、いわゆる断片文書が大部分であるが、文書の内容は官・私文書ともに多岐にわたり、当代の政治・社会・経済・文化に関する豊富な情報をそこから引き出すことができる。ただ発掘の経緯から明らかなように、現在、トゥルファン文書は、世界各国の図書館や研究所に散在しており、トゥルファン文書のすべての存在が確認できているわけではない。

アスターナ古墓画

アスターナ古墓群の造営時期（三～八世紀）から、出土文書のほとんどが漢文文書であることは当然であるが、数少ないながらもチベット語やソグド語の文書も出土している。さらには、ウイグル文書も出土したと指摘する研究者も存在するが、そこで気になるのは、先述の普査隊の報告に「阿斯塔那仏塔（A）・（B）〔（A）・残高約七m〕」とあり、この古墓群に仏塔が存在していることである。報告では、唐代のものと推測しているが、アスターナ古墓周辺地域において、仏塔状の建造物と関係がある墓は、これまでの報告による限り、ウイグル時代にかかる可能性が高いものと思われる。アスターナ古墓の造営年代を明確にするためにも、仏塔周辺の発掘調査が望まれる。

（荒川正晴）

◆DATA
所在地…新疆ウイグル自治区・吐魯番地区・吐魯番市・三堡郷【北緯42°52'54"、東経89°31'40"】
時代……漢人墓は三～八世紀（西晋～唐代）
参観……可（新疆ウイグル自治区博物館および吐魯番地区博物館に出土品を展示）